

# 教育新聞

発行所 教育新聞社  
 〒110-0005  
 東京都台東区上野3-17-7  
 代表 03(3832)3571  
 FAX 03(3832)3570  
 URL <http://www.kyobun.co.jp>  
 E-mail [kyoiku@kyobun.co.jp](mailto:kyoiku@kyobun.co.jp)  
 購読料 2625円(月額、税込)  
 発行人 00170-6-4369  
 ©教育新聞社 2011  
 週2回 月・木発行

## 主な記事

- 2 障害種別の免許状保有率が微増
  - 3 処遇改善で管理職選考充実へ
  - 4 高校で道徳教育を推進
- 新連載「まなブック」でつくる学び合い授業



「安全」とか「あたりまえ」ということばのなかで、ともすれば私たちは安易に暮らしがちだったと思う。

大地震を踏みしめてしっかり歩けば、安全で確実である。そんなイメージを抱いていた、あたりまえのように。

だから、人生も足許を見てしっかり歩けばまちがいが無い、と考

えてきた。朝起きてご飯をおいしく食べられる。行きたいところへ自分の足で行くことができる。大家族がいる。夜、眠れたい夢を見る。

自分に關していえば、地震や津波があることはむしろ承知していた。亡母は関東大震災の被災者で、下町の火の海の中を脱出し九死に一生を得た。

### 3・11以降思うこと

みんなあたりまえだと思つ。だから、ありがたいとは思わない。

しかし、ひと度、大地が大きく揺らげば、安全なところはないし、あたりまえだったものは少しもあたりまえでないことがわかる。

作家 志茂田 景樹

脱出していなければ、まだ未婚だったから僕は存在していなかった。

僕がこの世に生を得たのはあたりまえなことではない、と感謝しなければいけない。

にこともなければ、安全があたりまえで安易に暮らす。人のおろかしさを思い知らされる。今回の震災発生時、あわてて身近にあるはずの防災用のヘルメットと懐中電

光灯を探したが見あたらなかった。数日後、あらためて探したら収納庫のいちばん奥に突っこんであった。このていらくを反省しなければならぬ。

生きるということは少しも安全でないし、あたりまえでもないことをしっかり認識しようと思つ。

その認識を失わず、生かされている、それだけでも幸せなんだ、と思えば、ほんとうの安全を意識できる。生きる事がどんなにすばらしいかの実感が生まれる。